ケース別防止策を具体的に！

日総研

身体拘束最小化チームと認知症ケアチームの取組み方

鈴木みずえ氏　浜松医科大学医学部看護学科 特命研究教授

看護師、保健師、医科学修士（筑波大学）、医学博士（筑波大学）。大学病院に勤務後、1996年より大学教員として看護教育に携わる。2008年より浜松医科大学医学部看護学科臨床看護学講座教授。2025年４月より現職。高齢者の転倒・認知症予防に関するケア方法・評価方法の開発、病院における認知症看護の実践、高齢者施設における意思決定支援などの研究や研修を行っている。

佐藤晶子氏　聖隷三方原病院 専門・認定看護室看護課長 老人看護専門看護師

院内において認知症ケアチーム、身体拘束最小化チーム、臨床倫理コンサルテーションチームに所属し活動。2015年より身体拘束最小化に取り組み、整形外科病棟で病棟管理者として2017年に身体拘束ゼロを達成。2019年より病院全体の身体拘束最小化に取り組み成果をあげている。

東京	25年	7月21日（月・祝）	損保会館	[1]
大阪	25年	7月26日（土）	田村駒ビル	[2]
名古屋	25年	10月25日（土）	日総研ビル	[3]
福岡	26年	1月10日（土）	日総研 研修室（第７岡部ビル）	[4]

［講義時間］いずれも11：00〜16：30

受講料（税込）　一般 18,500円　会員 15,500円

※会員は日総研雑誌（定期刊行物・会員制）の年ぎめ購読者です。
※昼食代は含まれません。昼食は各自でお持ちください。
※ご参加いただくには事前のお申し込みが必要です。※最少催行人数13人。

パーソン・センタード・ケアを基盤とし 患者の安全と尊厳の両立を目指す関わり方や工夫

プログラム

鈴木氏

1．パーソン・センタード・ケアを基盤とした身体拘束予防の基本
- PCCの基本、身体拘束の及ぼす影響
- 倫理原則における身体拘束
- 患者の本人の退院後の生活を見据えた医療安全の考え方
- 認知機能が低下した高齢者の治療選択の意思決定支援

2．身体拘束最小化に向けた方針の作成
- 診療報酬で求められていること
- 身体拘束とされる具体的な行為と対策
- 院内外の多部署・多職種での情報共有と連携

3．認知症高齢者に対する看護の質を高める
- BPSD予防　・せん妄予防　・転倒転落予防

佐藤氏

4．身体拘束最小化のためのケース別防止策
- チューブ類の自己抜去　・転倒・転落　・脱衣・放尿・弄便

5．身体拘束最小化チームとDSTの役割
- 多職種チームの各職種の専門性
- 緊急やむを得ない場合の３要件の検討
- 安全を守りながら尊厳を守る：身体拘束を最小化するための取組み

プログラムや講師プロフィールなどセミナーの詳細はこちらから▶　日総研 15318　検索

関連雑誌　現場実務のスキルアップ！

地域包括ケアを多職種で実現！
地域連携 入退院と在宅支援

A4変型判 96頁
入会金 3,000円
年間購読料 33,540円
追加1セットにつき
プラス8,380円（共に税込）
複数セット購読の場合は
入会金免除

Web教材＋実務専門誌（定期刊行物・会員制）

今後の特集
- 地域連携パスの活用で、院内PFMから地域で行うPFMへ［5-6月号］
- 入院時の業務効率化と多職種協働［5-6月号］
- 退院支援業務をサポートする標準化・ツールの活用［7-8月号］
- 医療的ケア児と家族を支える地域連携・多職種連携［7-8月号］

日総研 **接遇大賞**　優れたサービス取り組みを表彰

応募は9月30日まで。発表は11月。

取り組み事例の紹介記事はこちら
接遇大賞　検索

国家資格の受験資格を取得することができる養成所

厚生労働大臣指定　一般財団法人 日本総合研究所
社会福祉士養成所 通信課程
精神保健福祉士養成所 通信課程

お問合せ ご注文　TEL：0120-054977　URL：www.nissoken.com　日総研　検索

主催 日総研出版　〒451-0051 名古屋市西区則武新町3-7-15 日総研ビル

雑誌年間購読者と一緒にお申込みいただくと参加者全員が会員価格に!

商品番号
15318

ケース別防止策を具体的に!

身体拘束最小化チームと認知症ケアチームの取組み方

福岡:26年1/10(土)　時間は11:00〜16:30

鈴木みずえ氏
浜松医科大学医学部看護学科
特命研究教授

看護師、保健師、医科学修士(筑波大学)、医学博士(筑波大学)。大学病院に勤務後、1996年より大学教員として看護教育に携わる。2008年より浜松医科大学医学部看護学科臨床看護学講座教授。2025年4月より現職。高齢者の転倒・認知症予防に関するケア方法・評価方法の開発、病院における認知症看護の実践、高齢者施設における意思決定支援などの研究や研修を行っている。

佐藤晶子氏
聖隷三方原病院 専門・認定看護室看護課長
老人看護専門看護師

院内において認知症ケアチーム、身体拘束最小化チーム、臨床倫理コンサルテーションチームに所属し活動。2015年より身体拘束最小化に取り組み、整形外科病棟で病棟管理者として2017年に身体拘束ゼロを達成。2019年より病院全体の身体拘束最小化に取り組み成果をあげている。

パーソン・センタード・ケアを基盤とし患者の安全と尊厳の両立を目指す関わり方や工夫

身体拘束を「患者自身の安全のため」という理由であっても、一度開始すると、せん妄や認知症の行動・心理症状が悪化して、ますます対応が困難となり、漫然と継続せざるを得ない状況を引き起こします。さらに医療従事者の「人の尊厳」に対する倫理的な意識や感性が鈍磨してしまいます。

診療報酬改定に伴い、身体拘束最小化は急性期病院の喫緊の課題となっています。本研修では、点滴などの自己抜去、脱衣、徘徊などの具体的な場面で、身体拘束をしないでケアをするための患者の本人の視点からの関わり方や工夫について、身体拘束最小化チームとDSTとしてすべきことをまとめてお伝えします。

プログラム

鈴木氏

1.パーソン・センタード・ケアを基盤とした身体拘束予防の基本
- PCCの基本、身体拘束の及ぼす影響
- 倫理原則における身体拘束
- 患者の本人の退院後の生活を見据えた医療安全の考え方
- 認知機能が低下した高齢者の治療選択の意思決定支援

2.身体拘束最小化に向けた方針の作成
- 診療報酬で求められていること
- 身体拘束とされる具体的な行為と対策
- 院内外の多部署・多職種での情報共有と連携

3.認知症高齢者に対する看護の質を高める
- BPSD予防
- せん妄予防
- 転倒転落予防

佐藤氏

4.身体拘束最小化のためのケース別防止策
- チューブ類の自己抜去
- 転倒・転落
- 脱衣・放尿・弄便

5.身体拘束最小化チームとDSTの役割
- 多職種チームの各職種の専門性
- 緊急やむを得ない場合の3要件の検討
- 安全を守りながら尊厳を守る:身体拘束を最小化するための取組み

受講料
1名につき/税込

会員 **15,500**円　一般 18,500円

※会員は日総研会員制・専門雑誌の年間購読者です。雑誌年間購読者と一緒に申し込むと、参加者全員が会員価格で受講できます。

セミナーの詳細の確認やお申し込みは、お電話かホームページにて承ります。

日総研

0120-054977　受付時間:午前9時〜午後5時(土・日・祝日は休業)

nissoken.com/s/　※QRコードか、トップページから「商品番号」で検索!　日総研 15318　検索

QRコードからでもお申し込みいただけます。